まとい　びと
纏　人



～2026年夏号の一枚～
特別訓練期間中の風物詩ともいえるカラビナ磨き　タオルの汚れの分だけ技術にも磨きがかかります

2026
夏

旬のトピックス

今年度の全庁的な防火防災にむけて

枚方寝屋川消防組合
Hirakata Neyagawa Fire Department

枚方寝屋川消防組合

活躍する職員



枚方東消防署本署　消防担当
松浦　廣平(36)

消防を志したきっかけを教えてください。

大学時代は一般企業(主に総合商社)への就職を目指していました。ただ、リーマンショックや東日本大震災の影響で就職活動は思うようにいかず、どうしようかなと悩んでいました。そんな時に兄から「消防向いてるんちゃう？」と言われ、「体動かすのも好きやし、地元で働くのもええか」くらいの気持ちで願書を出したのがきっかけです笑

枚方寝屋川消防組合に入職してよかったと思うことを教えてください。

消防学校教官、保安対策課、予防課、そして現在の消防隊と、さまざまな部署を経験させてもらえたことですね。部署が変わるたびに新しい考え方や見方を知ることができました。「また一からか」と思う時もありましたが、その経験が今の現場活動や後輩指導にも生かされていると感じています。



オレンジを身に包む松浦係長(左から2番目)

様々な部署を経験したキャリアの中で、一番印象に残っていることはありますか？

人が成長していく姿を近くで見られたことです。

消防学校でもそうでしたし、今も後輩を指導する立場になって感じますが、教えたことが少しずつ身について、自信を持って活動している姿を見るとうれしいですね。

もちろん自分が教えたというより、一緒に考えて、一緒に成長している感覚のほうが近いです。



隊員とコミュニケーションを欠かさない松浦係長
撮影時も、後輩職員を気遣う場面がみられました。

尊敬する上司や同僚について教えてください。

特定の一人というより、いろんな人から少しずつ影響を受けてきました。現場がすごい人もいれば、人を育てるのが上手な人もいますし、周りをよく見て動ける人もいます。「この人のここは真似したいな」と思うことが多かったですね。

一人挙げるなら元職員の浅井利美さんです。全部が全部尊敬というわけではないですけど（笑）。現場の基本や考え方は本当にたくさん教えていただきました。

消防隊長としてこんな隊にしていきたいという思いをお聞かせください。

私が目指すのは隊員一人ひとりが自分の考えを持ち、遠慮なく意見を言い合える隊です（浅井イズムも継承しつつ（笑））。基本を大切にしながら、一人ひとりが状況を判断し、自信を持って行動できる隊を作りたいと思っています。一人ひとりの成長が隊の力となり、東署のスローガンである「機動力のある力強い消防」を形にしていければと思います。



「浅井イズム」を継承し、朝の体力錬成（ボン着梯子ダッシュ後の階段ダッシュ）で隊員を鼓舞する松浦係長

～水上の部アドバイザーについて～

なぜ、水上の部のアドバイザーになろうと考えたのですか？

周囲から声を掛けてもらっていましたが、最初は断ろうと思っていました（笑）

経験もなかったので、自分にできるんかなと率直に思ったり、長年携わってこられた方々の中に入ることへの戸惑いもあったりました。

ですが、募集締切の最終日、予防課で一緒に勤務していた堀川主任から「頼むから一緒にやってほしい」とダメ押しで声を掛けてもらいました。

話を聞く中で、大会のためだけではなく、「水上の部をもっと良くしたい。そのためには経験者だけでなく、いろいろな視点が必要なんだ」という堀川主任の思いを聞きました。

その思いに心を動かされ、「そこまで本気なら、自分も力になりたい」と思い、挑戦することを決めました。

アドバイザーを通じて感じたことや、隊員に伝えたい思いをお聞かせください。

経験がなかったからこそ、「なぜこの訓練をするんやろ」「もっと伝わる方法はないか」と考えることが多かったです。教える側でしたけど、自分自身が一番勉強させてもらった気がします。

隊員には技術ももちろんですが、「考えること」を大事にしてほしいです。水上の部で得た経験が、その先の現場活動、消防人生にも必ず生きてくると信じています。





時に水中にも入り、隊員を指導する松浦係長

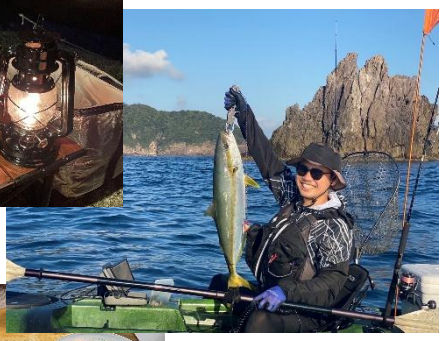
～プライベートについて～

休日の過ごし方や仕事以外で熱中していることはありますか？？

休日は「次は何を食べようかな」と考えている時間が一番楽しいかもしれません(笑)。家族と旬の食材を求めて出かけたり、自分で料理したり、料理に合う器を探しに陶器市へ足を運ぶこともあります。食材や料理に合わせてお酒を楽しむ時間も好きで、若い隊員はササミやプロテインで頑張っていますが(笑)

私は季節を感じながら食事を楽しむほうが性に合っています。キャンプや釣りも好きなので、家族と自然の中で過ごす時間も大切にしています。食育されたい方は、いつでも歓迎です(笑)









取りたての筍は刺身と
松浦係長は熱く語る

最後に、職員に向けて熱いメッセージをお願いします！！

これまでにいろんな部署を経験させてもらいました。その中で一番感じたのは、結局どの仕事も「人」が一番大事ということです。どれだけ知識や技術があっても、一人では何もできません。仲間と信頼関係を築いて、一緒に考えながら成長していくことが大事やと思っています。

「人として信頼されること。」消防士として信頼される前に、一人の人として信頼されることが大事だと思っています。日頃の言動や姿勢、その積み重ねがいざという時のチームワークや市民からの信頼につながるはずです。知識や技術だけでなく、人としても成長し続けられる消防人でありたいと思っています。

枚方東消防署本署からの 推し! メッセージ

松浦係長と初めて勤務させていただいたのが、私が初任教育を終えて、枚方東本署に配属された時です、右も左もわからない私に気さくに喋りかけてきてくれたことは今でも鮮明に覚えています。和やかに会話していたのに去り際に「うちしんどいぞ」と言い残し、その場を去っていったのですが、当時の私はあまりピンときていませんでした。

いざ勤務が始まると、すぐにその意味を理解(消防学校以上にキツい体力錬成を兼ねた訓練や、日々のハードな業務の数々…)し、心が折れそうになることが何度もありました。

そんな中、同じ小隊の先輩だった松浦係長(当時係員)の指導は、柔らかく、そしてその人にあった興味が持てるように工夫していただいていたと思います。振り返ってみれば松浦係長がそばにいてくださったおかげもあり、前向きに頑張れ、当時のきつかった経験も自信につながりました。

私だけでなく、松浦係長と勤務したことのある若手職員達に話を聞くと、「おもしろい！色んなことを教えてくれます！」と口を揃えてみんなが言いま

す。ですので、府立消防学校へ教官として派遣された際も、この人なら間違いない！適任だと強く思いました。

そしてこの4月から近畿地区指導会水上の部アドバイザーとして着任され、未経験でありながらも持ち前の指導力で新しい風を吹き込んでいただき、隊員達は非常に信頼しています。チャレンジ精神や新しい発想は他の人には無いものがあり、今やいなくてはならない存在でそういうところも尊敬しています。

また、枚方東本署3部消防担当の係長として勤務され、私はこの約4ヶ月間、仕事、特別訓練とほぼ毎日一緒に過ごしています、一緒に勤務するのは、約10年ぶりの勤務ですが、当時とまったく変わらず部下職員の指導を第一に考え大切にし、また小隊の枠を飛び越え、職場全体の雰囲気を活性化させてくれます。

今でも改めて学ぶことばかりで、いつか自分もこんな先輩になりたいなと本当に心の底から思えます。これからの枚方寝屋川消防組合に必要不可欠な人材であり、いつか自分もこんな上司になりたいなと強く思います。

これからも、松浦係長の持ち前の指導力や発想力で、組織の活性化に繋げていただき、部下職員の育成にどんどん携わって欲しいなと思います。

またその姿を間近で見て聞いて感じて、一つでも多くのことを吸収し学んでいきたいと思います。

（枚方東消防署　本署3部　消防担当　橋本　尚紀）

水上の部からの 推し！メッセージ

松浦係長にとって今年度は、水上経験がない中で「訓練アドバイザー」に着任するという、まさに新たな挑戦の１年となったことと思います。

水上の部は、まだまだ発展途上の段階ではありますが、チームとしては少しずつ結果が出始めているところです。しかし、組織は現状維持にとどまれば衰退していくものであり、これまでの歴史や伝統を大切にしながらも、チームのさらなる発展のために「新たな要素」を加える必要があると考え、模索を続けていました。その一環として、隊員と同様に訓練アドバイザーを公募制とした際、自ら手を挙げてくれたのが松浦係長でした。

以前から親交はありましたが、選考会などを通して意見交換を重ねる中で、学校教官としての経歴も持つ松浦係長の「冷静に本質を捉え、分析し、的確に指摘する能力」を改めて実感しました。

また、水上の部が重要視する「自主性を育む人材育成」において、自身の考えを押し付けるのではなく、適切な距離感を保ちながら軌道修正を促せる柔軟さは、チームにとって大きなプラスになると確信し、着任をお願いするに至りました。

着任後、松浦係長は初めて生で目にする種目であっても、まずは見て、聞いて、学び、自ら実践して分析した上で隊員と対話に臨み、そこで新たな発見があればさらに研究を重ねて提案する、そうしたプロセスを経て、隊員の育成にあたってくれています。

実際に、コパンスイミングスクールや東署プールでの泳ぎ込みに自ら参加したり、水中の浮環に結索をして研究したり、さらには、引っ張り手が不在の際には自ら引っ張りにチャレンジする姿も見られます。

ロープ結索をはじめとする手先の器用さは、救助隊員らも一目を置くほどであり、そのストイックな姿勢と旺盛なチャレンジ精神は、チームにとって非常に心強い存在となっています。

組織の方針や制度、仕組みは、ただ存在するだけでは機能しません。「水上の部」という事業や「人材育成」を切り取ってみても、組織が定めた方針を形にする人と、松浦係長のようにその主旨を深く理解して実行する人がいて初めて、成り立つものだと改めて実感させられます。

松浦係長には、訓練アドバイザーとして隊員を育成していくと同時に、松浦係長自身も新たな武器を身につけていただき、水上の部だけにとどまることなく、今後もさまざまな場面でその高い能力と豊富な経験を発揮してくれることと期待しています。

（警防課課長補佐兼水上の部訓練統括指揮者　田中　和哉）



消防組合でもっとも重要な「人材」のために

人材マネジメント課 課長
大西 康之

はじめに

本年４月の人事異動により、総務部人材マネジメント課長の職を拝命することとなりました。これまで、総務部として多くの勤務経験をしてきましたが、人材マネジメント課での勤務は初めてであり、身の引き締まる思いです。

一方で、これまで経験してこなかった私だからこそ、できることがあるとも自負しています。そういった自分の思いを具現化し、職員の人材育成や組織の発展に寄与できるよう、全力疾走で駆け抜けたいと思っています。

人材マネジメント課の職員は、全員が真面目で、一生懸命で、仕事に対して前向きな職員ばかりで、日々、頼もしく感じています。しかしながら、真面目であるが故、「枠を壊すこと」、「ひっくり返すこと」には苦手な印象を持ちました。そういった部分も意見交換をしながら改善し、これまで以上にパワーアップしてくれることを期待しています。



課のビジョンと組織の方向性

４月に着任した際、課内ミーティングにおいて、大きく２つのビジョンを示しました。

①組織を牽引する有能な人材の育成及びその人材への手厚いサポート体制の構築。

②組織の発展、成長に貢献した職員が報われる制度の構築。

この２つは、かねてから私が重要だと考えてきたものです。消防という組織において、もっとも重要なリソースは「人材」であると考えています。そして、その重要なリソースである「人材」を育成することは、本消防組合において、もっとも重要な課題であり、もっとも重要なタスクであると言っても過言ではありません。

このような、「人材育成」という組織において最も重要なタスクを所管する人材マネジメント課に配属されたことを誇りに思うとともに、あらゆる部署で効果的な人材育成が適切に実施されるよう環境を整えていくことが、私たちの至上命題であると認識しています。

今年度の重点的な取組み

研修計画の抜本的な見直しを掲げ、現状の研修項目をゼロベースで精査したうえで、現行体

制からの３割削減を目標に取組みを進めています。これらの研修体制を整理することにより、消防力維持のための警備体制に寄与できるものと考えています。また、実施する研修においても、これまでのような所属による人選や希望による人選だけではなく、戦略的な人選を織り交ぜることにより、効果的で持続性のある組織運営に好影響を及ぼしたいと考えています。さらには、研修内容を効果的に組織運営に反映させるためのフィードバック体制の構築も進めていきたいと考えています。

また、運用開始から２年目を迎えている人事評価制度にあっては、これまで以上に制度の理解と浸透を目指し、あらゆる職員とのコミュニケーションを継続的に図るとともに、さらなる制度の改善を目指し、見直しを進めていく予定です。これらの取組みを踏まえ、現在反映されている給与のみならず、人事評価制度を昇任昇格にも反映させていきたいと考えています。

その他、業務応援制度における管理職の負担軽減のための取組み、休暇・休業マニュアルの策定、自己啓発支援制度の創設、服務の心得の改訂など、あらゆる業務に課題意識を持ち、早期の策定・改訂に繋げることができるよう、取り組んでいく予定です。

枚方寝屋川消防組合の魅力

魅力的な組織とは、「明確な目的と価値観を共有し、心理的安全性のある環境で、多様な人材が成長実感と公正な評価を得ながら、社会への貢献と持続的な成果を両立できる組織である。」調べてみると、ＡＩからはこのような回答をもらいました。確かにそうなのかもしれませんが、私としてはＡＩからの回答は全く響きませんでした。私自身、整理できていない部分もありますが、人間でも組織でも、魅力とは作り上げるものではなく、内側から溢れてくるものであると認識しています。すべての職員がそれぞれの職務を全うし、市民の安全・安心のために一生懸命努力することが、自ずと組織の魅力につながっていくものと考えますし、職員採用にも好影響を及ぼしてくれるものと期待しています。

結びに

今回、このような機会をいただいたことで、人材マネジメント課の目指す取組みや方向性について、皆さんにご説明させていただくことができ、非常に意義深いものになったと考えています。

私個人でいえば、平成 19 年に消防士を拝命し、およそ 20 年間の消防人生を振り返る中で、自分なりにその時その場の状況に応じて、全力を尽くしてきたつもりです。他方、自分の存在が、枚方寝屋川消防組合の発展にどの程度貢献できたのだろうか、枚方市民、寝屋川市民の安全・安心を守ることに寄与できたのだろうか、自問自答してきたのも正直なところです。

そのような中で、令和６年度から７年度にかけて指揮隊での勤務を経験し、交替制勤務職員の現状や課題、感じている負担、不安、不満、ベテランから若手職員に至るまでのそれぞれの思いなどを肌で感じることができたのは、私にとって非常に大きな経験でした。

これからも、枚方寝屋川消防組合が市民の生命、身体、財産を守るために必要となる取組みを全力で実施していくことはもちろん、あらゆる職員が能力を十分に発揮できる環境整備、体制整備に尽力するとともに、人を惹きつける魅力的な組織を実現できるよう、全力を尽くしていきたいと考えておりますので、お力添えをいただければ幸いです。

新しい教育体制の構築



情報指令課　課長
越智　幸治

はじめに

このたび情報指令課長に就任いたしました越智です。

日々多様な情報が行き交う中で、正確かつ迅速な情報整理と共有を通じ、組織全体の意思決定と現場の円滑な活動を力強く支えていきたいと考えています。

また、各署所・関係各課との緊密な連携を大切にしながら、明るく何事にも積極的に取り組んでくれる情報指令課員とともに、課内の業務改善や情報体制の一層の強化にも積極的に取り組んでまいります。

ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

情報指令課が目指すべきビジョン

情報指令課では第５次将来構想計画後期事業計画にも示されている『司令塔機能の充実強化』について、当消防組合の司令塔として機能するにはどうするべきか、また将来的に『司令課』を目指すには何をするべきかを考え、各課員がモチベーションを高めて勤務に就いています。

そして、先ずは情報指令課内部からの改革を実行し、昨年度から増加し続ける 119 番通報に備え、交替制勤務員の最低人員を８人から９人に変更し昼間帯の勤務体制を８人勤務３人体制から８人勤務４人体制に見直し、４人１チーム制を組んで指令管制業務を遂行しています。これにより、前進指揮者に消防司令補以上、全体指揮者に課長・主幹が就くスタイルが確立でき、指揮命令系統が今まで以上に確立できました。

そのほかにも指令送出時のヒューマンエラーを未然に防ぐことができる、上席が後方にいる安心感による若手職員の心理的安全性の向上など、情報指令課全体のレベルアップに繋がっています。



８人勤務４人体制の配置例

また、消防情報システム更新に伴い、映像通報システム（Live119）など新たに配備されたツールを有効的に活用し、市民の皆様の安全を最前線で守っていきたいと考えています。

今後も司令塔として指令業務のあるべき姿は何かを常日頃から考え、全体最適の視点で状況を把握し、明確な方針と優先順位を示しつつ、関係各課と緊密に連携しながら迅速・的確な判断と指示を出し、その結果に責任をもって検証と改善を続けていきたいと考えています。

今年度の重点的な取り組み

情報指令課が今年度重点的に取り組んでいる２つの業務についてお話させていただきます。

まず１つ目は昨年度新たに策定した教育プログラムを定着させることです。この教育プログラムは係長が中心となって各課員の意見を集約し、何度も会議体で協議し完成させた画期的なプログラムとなっています。

教育プログラムには新任指令課員（情報指令課１年目）向けに作成されたベーシックコース、情報指令課勤務１年以上向けに作成されたブラッシュアップコース、消防司令補（係長・主査）向けに作成された管理コースの３つのカテゴリーがあり、係長が中心となり各課員の指導・育成を行っています。まだ始まったばかりではありますが、各課員の仕事ぶりや顔つきを見ても、明らかに意識の向上に繋がっていると実感しています。



情報指令課　ベーシック教育履修項目表

履修期間　7カ月　6カ月　1年間

職員番号　　階級　　氏名

業務順序	実施日	番号	指導・履修項目（訓練に当たっては、実施箇所名に修正して実施）	教科書名・参考資料・資料	履修目標及び到達基準	年月日（R.5.○.○）	指導担当者	指導責任者
		1	情報指令課の心得について	・119番対応マニュアル	情報指令課で勤務するための心得について理解している。市民からの災害通報を一手に受け、消防力の適正配備と効率的な運用の中心として機能している。 情報指令課で行っている活動概要について理解している。			
		2	情報指令課の当務員、勤務時間、休憩時間及び勤務時間について	・勤務時間等に関する条例 ・勤務時間等に関する条例施行規則 ・勤務時間等に関する訓令 第4章 第8条第3	情報指令課における、各部の当務員及び勤務をそれぞれの責任人員、毎日勤務員の配置人数について理解している。当務員の人数設定によって、その日の勤務時間、休憩時間及び勤務時間が変わることについて理解している。			
		3	119番電話回線（消防通報専用電話119）について	・指令室執マニュアル 第1章	119番に特別上昇の電話回線時、当センターへ着信すると組み込まれる仕組みについて理解している。指定電話は、NTT「緊急回線」119番着信専用線であり、着信時点表示機能が付与され、申告者、携帯電話についても、各チャンネルの音声表示から119番着信が確認されたら、直ぐ指令室の当務員と入電する仕組みである。なお、携帯電話については、発信の位置情報に基づいて管轄の消防本部を認識するため、組み込まれている。 電話をとり119番、百管轄の消防本部へ接続するために理解されている専用の電話回線である。一般の電話回線とは区別されず、また、緊急通報を最優先で受付けられるように設計されている。なお、これについては、主に指導・データ収集機種・専用設置等である。			
		4	急体障害者向けの緊急通報について	・NET119緊急通報 ・FAX119緊急通報	急体障害者向けの消防機関の電話手段として、NET119、FAX119があることについて理解している。これらは、火災・救急・事故などの緊急事態において、緊急通報管理者などの方々が一緒に登録し、情報を共有の方法であるように登録された通信と手続きのために組み込まれる。NET119については、事前登録の方法であることを理解しており、新規登録の方法等のマニュアルの理解及び申請書類を把握し、新規登録や内容変更等の方法をマニュアルを参照しながら行うことができる。			
		5	映像通報について	・Live119指令マニュアル ・Live119新規フローチャート	令和3年中の消防情報システムの更新により、Live119が導入され、119番通報時に映像による通報が可能となっている。映像通報については、基本的な取り扱い方もレてあり、救急通報で3分から隊員の到着も視野にることを理解している。Live119の操作要領並びに技術・操作について理解し操作ができる。 Live119は、通常の音声による119通報に加えて、「通報者用のスマートフォンで撮影した映像」を、リアルタイムで消防指令センター「消防指令室」に送信できるシステムである。当消防本部においては、株式会社トーンモバイル、Live119を運用している。			
		6	転送回線について	・大規模災害における携帯電話等からの119番通報の転送要領 ・携帯電話からの119番通報の転送要領 ・救急車における携帯電話等からの119番通報の転送要領 ・船舶以外における救急車版、携帯電話からの119番通報の転送要領	当消防センターでは、転送回線が2回線の指令台で構成されている。指令台の操作方法には、転送回線機能に係る操作があり、指令台に入電する仕組みであるために、転送回線を理解している。また、各指令台の119番通報の転送要領を理解している。 転送回線とは、火災・救急の通報を受け付ける本部とは別の消防本部へ転送するための回線のことである。管轄が異なる場合、どのように他の消防本部へ転送するのか各指令台の119番通報の転送要領を理解している。			

＊教育プログラムの一部を抜粋

２つ目は情報指令課実務研修です。今年度から情報指令課で実施していた実務研修の内容を抜本的に見直しました。これまで各署救急隊員を中心に実務研修を行ってきましたが、今年度からは希望制によるものとし、階級を消防士長以上・消防司令以下に定め、研修内容も昨年度新たに策定したカリキュラムに準じて実施することとしています。

情報指令課実務研修実施項目

１　趣旨

本実務研修実施項目は、研修カリキュラム及び研修後の到達目標について記載する。

２　研修カリキュラム

	時間	内容	備考(教育プログラム項目)
午前	8時45分～9時00分	勤務交替・事務連絡	
	9時00分～9時30分	通信試験準備 活動波１　通信試験 通信試験の振返り及び所感	指令台で無線通信を行う
	9時30分～10時10分	無線についての基本的知識 各車両動態管理	5-2. 5-4. 5-6. 5-7 1-10. 3-16
	休息（10分）		
	10時20分～11時10分	消防情報指令センター NET119、Live119について 口頭指導について	1-5. 1-13. 4-1
	休息（5分）		
	11時15分～12時00分	指令台勤務	指令台副席に着席 通報内容等のモニタリング
昼休憩（45分）			
午後	12時45分～13時15分	指令台勤務 研修準備	指令台副席に着席 通報内容等のモニタリング
	13時15分～14時10分	情報指令課の勤務体制 指令班非常警備計画	3-14. 3-15. 4-1
	休息（10分）		
	14時20分～15時10分	119番通報聴取の基本的事項 模擬災害対応訓練 119番通報受付訓練	1-1. 1-12. 1-34
	休息（5分）		
	15時15分～16時15分	指令台勤務 119番通報対応 効果確認	実際の119番通報の聴取を1事案以上行う。（システム操作は除く）
	休息（10分）		
	16時25分～16時45分	119番通報対応の振返り 所感	実際に対応した119番通報について考察する。
	16時45分～17時00分	各部指令課長講評	
	17時00分～17時15分	事務連絡	

研修制度を見直した理由は、より多くの職員に情報指令課での勤務を経験していただきたいことは勿論ですが、消防情報システムが更新され、可搬型指令台や映像通報システムの導入など、システムの高度化が進む中で指令管制補助員として実務研修を受けた方には活躍していただきたいと考えたからです。難しいと思われる職員の方も多くおられるとは思いますが、興味のある方は是非とも応募していただければと思います。

広報・連携への思い

消防情報システム更新に伴い、先にも書きました可搬型指令台や映像通報システムなど、新たなツールが増えました。これは尊い人命を守る・救うためには重要なツールです。そこで、この新たなツールを市民の皆さん、職員の皆さんに知っていただくためにはどうするべきか。そのほかにも「正しい 119 番通報」や「応急手当の重要性」を理解してもらうために必要なことは何か。やはり広報活動だと考えています。

情報指令課では、これからも YouTube や X、Instagram などの各種媒体において積極的にアピールしていきます。また、救命講習や住宅防火診断、自主防災訓練など全庁的な広報活動も必要であると考えています。職員の皆様方、ご協力の程よろしくお願いいたします。

結びに

消防情報システム更新から多数の障害が発生し、関係各課、職員の皆様方に多大なるご迷惑をおかけして申し訳ございません。現在、完全復旧に向けて日々取り組んでおりますので、ご理解の程よろしくお願いいたします。

情報指令課は、今後も貪欲に前に進んでまいりますので、皆様方からの温かいご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



旬のトピックス

今年度の
全庁的な住宅防火・防災対策にむけて

予防指導課

こんにちは。予防指導課です。
昨年９月１日から 21 日にかけて実施した全庁的な住宅防火・防災対策。「住宅用火災警報器の設置率向上・維持管理の促進」及び「感震ブレーカーの認知度向上」を最重点項目として掲げ、一斉調査や広報イベント等、様々な取り組みを“全庁的な”という言葉どおり職員全員が一丸となって実施しました。多くの職員の皆様にご協力いただき、誠にありがとうございました。

今回は、昨年の全庁的な住宅防火・防災対策の振り返りと、その後の防火・防災対策を予防指導課がどのように展開しているかを簡単にご紹介させていただきます。



イベント等について



各部署において、住宅防火・防災対策として広報的な効果が見込まれる取組として様々なイベント等を企画し実施いただきました。

普段は予防業務に携わる機会の少ない部署においても積極的にご協力いただきました。救急課では、ビバモールでの寝屋川にて開催された救急医療週間に伴うイベントにおいて防火・防災についてのアンケートを実施してくださりました。**所属の垣根を越えて**多くの職員が前向きに取り組んでくださったおかげで、多くの市民の方々にご参加いただき、防火・防災意識の高揚につなげることができました。

一斉調査について

一斉調査では、対面回答及びアンケート回答を合わせて、3,931 世帯からご回答をいただきました。

調査の結果、住宅用火災警報器の設置率は枚方市 69.9%、寝屋川市 68.8%、全体 69.6%となりました。この結果は、全国平均 84.9%、大阪府平均 85.7%（令和７年６月１日時点　総務省予防課調べ）と比較すると、依然として低い数値を示しており、今後改善に向けた検討の必要がある課題の残るものとなりました。

また感震ブレーカーの認知度については、全体で 35%という結果でした。

一斉調査の結果を踏まえて



一斉調査の結果を踏まえ、住警器の設置率が低かった地域を中心に、住宅用火災警報器共同購入や取付け支援の呼びかけを実施しました。

現在も、自治会や老人会を中心に呼びかけを実施しており、これまでに 11 地区に案内を実施し、そのうち３地区にて共同購入をご利用いただき、合計 40 個の住宅用火災警報器を購入していただきました。また、取付け支援については５世帯からお申し込みをいただき、職員がご自宅を訪問し、合計 12 個の住宅用火災警報器を設置しました。







昨年の一斉調査で把握した地域課題をもとに重点的な働きかけを行った結果、共同購入や取付支援の利用につながっています。皆様が暑い中取り組んでくださった一斉調査が、着実に住宅用火災警報器の設置率向上へと結びついています。

今年度も全庁的な住宅防火・防災対策を実施します。

現在、昨年度の実施結果を踏まえ、より効果的な取り組みとなるよう検討を進めています。なお、今年度は実施時期を変更し、11 月 1 日から 30 日まで実施する予定です。

昨年度は総務省が実施している「住宅防火・防災キャンペーン」の期間に合わせて、9 月 1 日から 21 日に実施しましたが、**今年度は 11 月９日から 15 日までの秋季火災予防週間と連携しながら、様々な取り組みを展開していきます。**

また、今年度は目標値として住警器設置率 73%を掲げています。この数値は年間を通じた目標であり、全庁的な防火・防災対策としての目標ではありません。しかし、本取組が目標達成にむけた重要な柱の一つであり、その成果が大きく影響すると考えています。

私たちが目指すのは、73%という数字そのものではありません。その先にある**「住宅火災による被害を減らし、一人でも多くの命を守ること」が真の目的**です。その実現に向けて、予防指導課では昨年度の実施結果を分析し、各課がより効果的に取り組めるよう準備を進めています。今年度も各課がそれぞれの役割を果たし、住宅防火・防災対策を推進していきましょう。



全職員が火災予防の担い手であるという意識を持ち、一丸となって取り組んでいきたいと思っておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

研修レポ

消防大学校　指揮隊長コース



受講インタビュー

警防部　指揮支援・調査隊
小居　義皓

令和８年５月７日から５月 21 日までの 15 日間、東京都調布市にある消防大学校において「指揮隊長コース」の研修が行われました。本消防組合からも警防課指揮支援調査隊の小居主幹が派遣され、全国から集まった指揮隊長や候補とともに、大災害時における部隊運用や他機関連携について学びを修められました。

今回は、研修を終えたばかりの小居主幹に、講義の様子から有意義だった寮生活、そして「外部研修」に対するメッセージをインタビュー形式で詳しく振り返っていただきました。

編集部

今回は消防大学校の「指揮隊長コース」に参加されたとのことですが、まずはどのような研修だったのか、概要や集まったメンバーについて教えてください。

小居主幹

受講資格としては、緊急消防援助隊の指揮支援部隊長、指揮支援隊長、都道府県大隊長又は都道府県大隊指揮隊長（本消防組合の指揮支援隊が該当）である者となっています。コースの主な内容は、緊急消防援助隊の動向や部隊運用、他機関連携、大規模災害時の応援活動、図上訓練など、都道府県レベルの大隊や中隊運用に関するものでした。

指揮隊長コースは、消防大学校の各課・コースの中でも定員が最も多く、北は青森県、南は鹿児島県から計 76 人の方が派遣され、コース全体の平均年齢は５３歳、最年長は 58 歳、私は 42 歳で最年少でした。

入校日数は 15 日間、カリキュラムは、座学が約８割、図上訓練が約２割で、主な講師としては、消防庁広域応援室の職員、東京消防庁・横浜市消防局等の職員、過去に統括指揮支援隊や指揮支援隊で派遣された消防本部の職員、医師、大学教授等で、どの講師もレベルが高く、内容だけでなく、講義の進め方なども参考になる部分が多くありました。



総勢 76 名の副代表を務める小居主幹

編集部

全国からベテランの指揮官が集まる中で、最年少だったのですね！講義の内容で、特に印象深かった部分はどこですか？

小居主幹

特に重点が置かれていたのは、指揮支援隊や都道府県大隊長といった指揮隊より上位の立場に求められる役割等の部分でしたが、上位の役割を把握することで、指揮隊が果たすべき役割を理解することにも繋がりました。

講義の中で特に印象的だったのは、今回から初めて取り入れられた「災害救助犬」に関する講義で、実際に「ピースウィンズ・ジャパン」という団体の方が災害救助犬を連れて、消防大学校の瓦礫施設を使った捜索活動を披露してくれたことです。もちろん、災害救助犬という存在は知っていましたが、実際に活動を見ることは初めてでした。

編集部

実際の捜索活動を目の前で見られたのは貴重な経験ですね。

小居主幹

そうですね。講義後に主担教官から今回この内容を取り入れた理由についてお話があり「知ることで引き出しを増やしてほしい。知らなければ、使う・使わないという判断もできない」という思いがあってのことだと伺いました。「百聞は一見に如かず」とはよく言いますが、まさに見て知ることの大切さ、知識の幅を広げることの大切さを改めて感じました。

また、校外研修では、総務省に赴き、消防庁長官の講話を聴くことができました。研修後に開かれた懇親会では長官と名刺交換の機会もありましたが、単なる事務的な名刺交換ではなく、長官が一人ひとりと丁寧に会話されている姿が印象的でした。

編集部

なるほど!! 大変な中身の濃い 15 日間だったことが伝わります。この貴重な学びをすでに消防組合内にフィードバックされたそうですね。

小居主幹

ええ、先日、本部主催フィードバック研修を開催し、緊急消防援助隊の現状と動向、他機関との連携などについてお話をさせていただきました。



また、今回私が派遣された指揮隊長コースの学生の中には令和８年４月に岩手県の大槌町で発生した林野火災に青森県大隊（第１次派遣）の都道府県大隊長として派遣された方がおり、その方から伺った体験談や苦労話等を踏まえ、これから緊急消防援助隊に派遣される方に「どのような心構えや思い」を持って、派遣・活動にあたってほしいかといった部分についてもお話させていただきました。

当日の研修内容については、人材マネジメント課がグループウェアに動画を公開する予定であると聞いていますので、今後緊急消防援助隊に派遣される可能性がある方は是非ご視聴いただければと思います。

編集部

実は私も、フィードバック研修に参加させていただきましたが、やはりその「派遣隊として心得ておくべき６つの『心構えと思い』」が印象的でした。

つい疎かにしてしまいがちなことや、陥りがちな誤認識に対するメッセージとして受け取りました。緊援隊だけでなく、普段の災害対応にも通ずる、襟を正してくれる言葉として、胸に刻んでおきます!! ぜひ、動画が公開されれば、皆さんにも必ずチェックしていただきたいと思います！

話は変わりますが、ここからは課外での交流や寮生活についてもお伺いできますか？

小居主幹

冒頭にもお伝えしたように、今回のコースで私は断トツの最年少だったこともあり、副代表に立候補しました。副代表の役割としては、教官からの連絡事項等の伝達・調整、学友会や各種懇親会等の取りまとめ、図上訓練の役割表の作成等がありました。思っていた以上にやることが多く結構忙しかったです（笑）

私が入寮していた南寮はメゾネット型で個室に加え、共有スペースがあるタイプの居室でしたので、17時に授業が終わり、制服から部屋着に着替えると、自然と班員が共有スペースに集まり、各地の名産品やお酒などを楽しむ時間を過ごしていました。私は青森県、群馬県、静岡県、熊本県の方と同じ部屋でしたので、肉・うなぎ・馬刺しなど、様々な美味しいものをいただきました。

また、派遣期間中には伊藤消防長の東京出張があり、伊藤消防長・月原主幹（消防大学校）・梶井課長補佐（消防研究センター）・若松課長補佐（消防長随行）・市浦係長（総務省消防庁）・山内主任（府立消防学校から消防大学校救助科に入校）との食事会を開催していただきました。地元大阪を離れた東京の地で、様々な立場で集まることができ、すごく感慨深いものがありました。



編集部

東京の地で皆さんと集まれるのは心強いですね。ほかにも休日のリフレッシュや趣味の時間も楽しまれましたか？

小居主幹

私の趣味についても少しだけお話させていただきます。まず、私の一番の趣味である競馬について、派遣期間の週末に東京競馬場でＧ１レースがあり、初の東京競馬場訪問でしたが、当日は天気にも恵まれ良い思い出になりました。



また、私は昔からラーメンが好きで、今回の派遣では４軒のラーメン屋に行くことができました。特に美味しかったのは三鷹駅にある「すず鬼」というラーメン屋で、同じ班の人達と行列に１時間半くらい並びましたが、非常に美味しかったので、これから消防大学校に行く方には強くおススメします。



すず鬼（すずき）の「スタ満ソバ」
アリラン×次郎系×竹岡式という３つの
人気ラーメンを融合させた人気ラーメン

編集部

1時間半の行列！写真を見ているだけでよだれが出てきそうです😋それでは最後に、今回の派遣研修全体を振り返っての思いをお聞かせください。

小居主幹

私はこれまで、後方支援要員として、実災害（平成30年7月豪雨・能登半島地震）、近畿ブロック合同訓練（滋賀県・福井県）、全国合同訓練（静岡県）等に派遣されたことはあり、緊急消防援助隊の枠組やその役割等についても形式的にはある程度理解しているつもりでしたが、今回の派遣を通して、より明確にイメージが持てるようになりました。

派遣について少しお話させていただくと、私自身のキャリアの中でこれまで大きな派遣が2回ありました。

1回目が平成26年度に派遣された大阪市消防局（消防救助技術近畿地区指導会ＰＴ）への派遣、2回目が令和2・3年度に派遣された大阪府（危機管理室消防保安課）への派遣です。その2回の派遣と比較すると今回の研修派遣の期間は短かったものの、全国から派遣されてきた人達と寝食を共にし、勉学や情報交換の時間を過ごせたことは非常に良い機会になりました。派遣前は異動後間もない時期かつ最年少での派遣ということで少し不安もありましたが、いざ現地での研修生活が始まると、充実した日々で気づけば修業を迎えていた感覚でした。

編集部

外の世界を経験したからこそ、改めて見えてきたこともあったのではないでしょうか。

小居主幹

そうですね。他市の人達と話す中で感じたことは、本消防組合で近年取り組んでいる施策は先進的なものが多く、休暇の取得等についても恵まれている部分が多いということです。組織の中にいると気づきにくい部分かもしれませんが、少し離れて自分の組織について見聞きしてみると、改めて感じる良さがあります。

本消防組合には公募制の研修派遣や自己申告で他機関への派遣を希望する機会もあります。現場活動や消防組合内での仕事にやりがいや誇りを持っている方は多くいると思いますが、長い消防人生の中で少し所属を離れて、各種研修派遣や他機関への長期派遣に挑戦することも長い消防人生の中で見れば大きな財産になるはずです。

どんな研修や派遣でも、行けば必ず何かの学びや気づきがあると思いますので、少しでも興味やチャレンジしたい気持ちがあれば、是非一歩踏み出してみてはいかがでしょうか！

編集部

貴重なお話をありがとうございました！

～纏人 編集部からのお知らせ～

受講した研修に関して語りたい、もっと深い部分までフィードバックしたい方を募集しています!!

記事にするつもりで受講すれば、研修の吸収率もさらに上昇間違いなし💪

受講前後問わずご興味のある方はぜひ企画戦略課纏人 編集部まで!!（内線 9906　担当：辰島）



編集長だより

広報戦略官　森 真彦

1　はじめに

今年も半年が過ぎ、すでに夏季休暇の期間に突入しています。皆さんは今年の夏の予定は決まりましたか？

私は例年通り、８月前半に夏山ツアーで富山方面を目指しています。

日々、熊の出没情報などを気にしているところです・・・

さて、2026 年夏号では令和８年度消防組合運営方針についてお伝えします。

2　運営方針について

この運営方針は、第５次将来構想計画の基本目標の達成に向けて、令和８年度に取り組む各分野の事業や予算などを明確にした方針になります。

令和８年度は第５次将来構想計画後期事業計画の初年度であり、「安全・安心を実感できるまち～ともにつくる～」の実現のためにも、組織一丸となって防火・防災対策の推進、消防防災体制の充実強化、救急医療体制の推進などに取り組みます。

3　令和８年度予算について

令和８年度歳入歳出予算は、84 億 2,109 万 8 千円で、令和７年度と比較して 18 億 4,156 万１千円の減額となっています。

4　予算の柱・主要事業

⑴　命を守る現場対応力の強化

本消防組合においては絶対に殉職者を出さないために必要な措置、酷暑などの影響によってますます過酷となる活動環境を改善するための必要な措置を講じます。市民の命、隊員の命を守るための車両、資機材等に係る予算を最優先に配当します。

主要事業は消防車両更新事業、安全管理資器材整備事業、ヒートストレス対策事業、消防救急デジタル無線更新事業です。

⑵　職員が働く環境の整備

職員が勤務しやすい環境の整備に必要な措置を講じます。

庁舎のトイレや浴室等の水回りの計画的な修繕には優先的に予算を配当します。庁舎の修繕については、将来負担を考慮した長寿命化、保全を計画的に進めます。

主要事業は庁舎 LED 化事業、働く環境の整備事業です。

⑶　デジタル時代の組織への変革

仕事の進め方、組織・人事の仕組み、組織文化・風土そのものを変革し、全庁的にデジタル時代の組織へと変革するための措置を講じます。

主要事業は文書管理システム整備事業、マイナ救急事業です。

5　基本目標ごとの方針

基本目標１
市民・事業所の防火・防災意識の高揚と自助・共助の醸成

令和８年度予算額　967 万 7 千円

①地域防災力強化事業

大規模災害用消防資器材備蓄庫資器材購入、消防団との連携強化に取り組みます。

②住宅防火安全対策事業

全庁的な住宅防火・防災、感震ブレーカーの普及促進に取り組みます。

③防火対象物安全対策事業

令和８年度立入検査基本方針に基づき、査察対象物の防火管理者や関係者に火災予防の意識を醸成し、自主的な防火体制の構築を促します。

④自主保安体制構築事業

危険物施設保有事業所における自主保安体制を醸成し、定期的な自主チェックで法令遵守等をしながら危険物に係る事故の防止につなげます。

基本目標２
あらゆる災害から市民を守るための消防防災体制の強化

令和８年度予算額　5 億 6,559 万 3 千円

①消防防災拠点整備事業

枚方消防署新庁舎建設の具体化に向け、「枚方消防署新庁舎整備基本計画の策定」と「枚方消防署新庁舎整備に係る民間活力導入可能性調査」を委託します。

②消防防災体制強化事業

主力車両の更新については、車両更新計画に基づき、枚方東本署、北山出張所、神田出張所配備の救急車３台を更新します。ミニタンク車については、単年度での整備が困難な状況になっていることから、渚出張所、川越出張所、明和出張所配備のミニタンク車を２か年度で更新します。

安全管理用資器材整備事業として、火災現場等での活動時における隊員の安全管理に資する資器材を整備します。ヒートストレス対策事業として、アイスバス、飲料水、経口補水液を配備します。

また、消防救助体制の再整備、新しい消防技術の検討を行います。

③大規模災害対応強化事業

緊急消防援助隊近畿ブロック訓練及び全国訓練への参加、３署合同訓練により大規模災害への対応能力の向上を図ります。

④指令管制業務充実強化事業

枚方市駅前再開発など、都市構造の変化に対応するために消防救急デジタル無線を更新します。令和８年度は調達支援業務委託を行い、令和９年度、10 年度にデジタル無線を更新します。

また、映像通報の普及を図り、映像での現場状況把握、口頭指導の質の向上・実施率向上を図ります。

基本目標３
市民生活に安心感を与えるための救急医療体制の推進

令和８年度予算額　1 億 3,092 万円

①救急体制充実整備事業

増加し続ける救急需要に対応するため、全署所への救急隊配備や適正な配置に向けて取り組みます。

また、患者等搬送事業者の活用、救急安心センター事業への参画、救急救命士の養成に取り組みます。

②救急医療連携事業

令和８年度も引き続きドクターカー事業を実施します。救急需要対策のために、ドクターカー運用体制を見直すとともに、病院研修の充実を図ります。

また、人生の最終段階にあり心肺蘇生等を望まない心肺停止傷病者への救急隊の標準的活動ガイドラインを北河内地域全体で効果的に運用します。

③予防救急事業

救命講習の充実、高齢者救急ガイドブックの配布に取り組みます。

基本目標４
ＩＣＴを活用したスマートな消防行政の構築

令和８年度予算額　1,740 万 8 千円

ＤＸ推進本部を頂点とする DX 推進体制で、全庁的なデジタル時代の組織への変革に向けて取り組みます。

文書管理システム整備事業、マイナ救急事業を実施します。

広報関係では、令和８年度広報戦略に基づき、戦略的な広報を実施します。

基本目標５
すべての職員が活躍できる魅力あふれる職場環境の整備

令和８年度予算額　１億 1,870 万 1 千円

職場環境整備計画に基づき、計画的に署所の職場環境の整備と各署所の照明 LED 化を図ります。

また、アイデアコンテスト（全職員提案審査制度）、女性活躍推進の取り組み、メンタルヘルス計画の策定などを実施します。

持続可能な行財政運営

令和８年度予算額　75 億 7,879 万 9 千円

①組織体制整備事業経費

本消防組合の予算の 80%以上を占める人件費の適正な執行に努めます。

職員数の適正な管理のために定員適正化計画を策定します。

②消防施設の整備事業経費

消防施設個別計画に基づき、施設の長寿命化を図るために、計画的に消防庁舎の修繕等を実施します。

※令和８年度消防組合運営方針は、近日中にホームページに掲載します。

令和８年度歳入歳出予算

（千円）

	令和８年度予算額	令和７年度予算	増減額
基本目標１	**9,677**	**65,228**	**▲ 55,551**
地域防災力強化事業経費	7,984	63,602	▲ 55,618
住宅防火安全対策事業経費	1,389	1,267	122
防火対象物安全対策事業経費	58	58	0
自主保安体制構築事業経費	246	301	▲ 55
基本目標２	**565,593**	**3,214,894**	**▲ 2,649,301**
消防防災拠点整備事業経費	43,351	0	43,351
消防防災体制強化事業経費	291,448	322,546	▲ 31,098
大規模災害対応強化事業経費	20,402	18,272	2,130
指令管制業務充実強化事業経費	210,392	2,874,076	▲ 2,663,684
基本目標３	**130,920**	**125,432**	**5,488**
救急体制充実整備事業経費	46,790	41,942	4,848
救急医療連携事業経費	82,170	82,331	▲ 161
予防救急事業経費	1,960	1,159	801
基本目標４	**17,408**	**14,812**	**2,596**
スマート消防事業経費	17,408	14,812	2,596
基本目標５	**118,701**	**91,805**	**26,896**
職場環境整備事業経費	118,701	91,805	26,896
持続可能な行財政運営　関連経費	**7,578,799**	**6,750,488**	**828,311**
組織体制整備事業経費	7,374,083	6,490,466	883,617
消防施設の整備事業経費	204,716	260,022	▲ 55,306
合計	**8,421,098**	**10,262,659**	**▲ 1,841,561**

広報のイマを届けます

ひらね広報部！ vol. 02

プロジェクト型広報ＰＴ始動！！

前回のひらね広報部！でもお伝えしたとおり、今年度から広報PTのプロジェクト登用がスタートしました。

●「採用PR動画制作」

記念すべき第１回目のプロジェクトは、阪出張所３部救急担当の本田係長に参加していただきました!!

本田係長にはインタビュー形式のシネマティックでかっこいい動画に仕上げていただきました。

今回制作された動画は採用説明会で上映され、真剣に見入っていました✨

また、動画は採用制説明会での投影や、公式YouTube、本部庁舎のデジタルサイネージでも放送中ですので、ぜひ皆さんもご覧ください。

話は変わりますが、継続的にプロジェクトに参加いただいている職員には、経験に応じ、プロジェクトにおいてリーダー的な役割を担う立場になっていただくなど、積極的な参加が報われるようなメリットをも作っていければと考えています。

■本田係長コメント



阪出張所 救急担当
本田 達哉

動画制作ということで、簡単な家族旅行のvlogや、友人の結婚式のムービーを作ったこともあり、自分のスキルを役立てることができればと思い、応募しました。

編集作業は本部で行いましたが、作業場所が担当者と近く相談しやすかったり、他の課の職員ともコミュニケーションをとることができ、良い経験になりました。

また、日程調整も自分で決めることができたり、柔軟に対応してもらえたりし、その点もやりやすく思いました。

スキルに自信がなくても、担当者のサポートを受けながらチャレンジできる環境なので、少しでも興味のある人はどんどん参加してほしいと思いますし、また参加したいなと思います。



●「出初式来場者5,000人プロジェクト」

続いて、令和９年１月開催の出初式の来場者5,000人を目標にしたプロジェクトになります。本プロジェクトには多数の応募をいただきました✨

早速、ミーティングを行い、まずは７月末に発信する予定です!!本号では、プロジェクトメンバーに、来場者5,000人にかける思いをお伺いしました。



中宮出張所 消防担当
欅田 翔伍

私たち広報プロジェクトチームは、「出初式来場者5,000人」の達成を本気で目指しています。 しかし、この目標は単なる数字ではありません。一人でも多くの市民に消防の魅力を知っていただき、地域を守る私たちの使命や、日々積み重ねている訓練、仲間と支え合う姿を伝えたい。その強い想いが原動力です。出初式は、市民と消防をつなぎ、信頼を深める大切な機会であり、未来の仲間との出会いにつながる舞台でもあります。私たちは前例にとらわれず挑戦を続け、この取組を職員全員で創り上げるプロジェクトへ発展させます。全員の力を結集し、必ず5,000人を達成し、「消防ってすごい」「来てよかった」と心から感じていただける、最高の出初式を実現します。



枚方消防署 警備課
土田 顕人

はじめまして。枚方消防署警備課日勤、土田顕人と申します。 今回「出初式来場者5,000 人プロジェクト」に参加させていただくことになり、とてもワクワクした気持ちで日々取り組んでおります。 私は入職してまだ日も浅く、出初式についても皆様に比べると知識も経験も及ばないですが、これまで他業種で働いていた経験や知識を活かし、少しでもお力になれればと考えております。 枚方寝屋川消防組合の出初式がより良い形で多くの人たちが認知し、魅力を感じてもらえたらという思いで取り組んでまいります。今後皆様にもご協力を依頼する場面があるかもしれません。その際はお力添えの程、どうかよろしくお願いいたします。



枚方東本署 消防担当
清水　威武輝

お疲れ様です。枚方東消防署本署消防担当の清水 威武輝です。 出初式で5,000人の来場者という今までにない目標を達成したいと思い、プロジェクトチームに参加させていただきました。 目標達成のためには既存の枠を超えた斬新なアイデアが必要になります。私の持てるすべてを出しプロジェクトチーム一丸となって「今年の枚方市の出初式、めっちゃ面白そう！！」と思っていただけるよう全力を尽くしたいと思います。 また、広報でもし画期的なアイデアなどがあれば連絡いただけると嬉しいです!!

テレビ取材を２件獲得しました！📺

今年度、早速２件のテレビ取材を獲得することができました!!
１つは庁内インフォメーションでもお伝えしたように６月12日放送の読売テレビ「かんさい情報ネットten.」の人気コーナー「ナニバーサリー探偵」への出演です。皆さんは、ご覧いただけましたでしょうか？？
番組では、「水・陸両方でレスキュー日本一の消防署に入隊！」として、第54回消防救助近畿地区指導会に挑む、訓練中の様子を放送していただきました。
吉本芸人のネイビーズアフロのお二人による見事な掛け合いで面白く、そしてわが消防組合の良さもアピールしていただけたのではないでしょうか✨
また、現在もう1本、とある職員の密着取材を獲得しました!!８月上旬ごろの放送になる予定ですが、詳細はまだ未公開となっています。公開され次第、庁内インフォメーションやSNSでお伝えいたします。どうぞお楽しみに！！
また、今回の２件ものテレビ取材の獲得は裏では、わが企画戦略課の北野主任の奮闘がありました。
たまたま舞い込んできた案件ではなく、昨年からテレビ関係者との担当者間の関係づくりから始まり、粘り強く消防組合の取材を交渉した末、勝ち取った取材でもあります!!
ひらね広報部！では、そんな北野主任に取材の獲得にかけたその思いや交渉の工夫について聞いてみました😆



総務部 企画戦略課
北野 浩士

本組合の職員の魅力や消防の仕事を、何としても一人でも多くの方に知っていただきたいという思いで、テレビ取材の依頼に取り組んできました。
直接お会いしたことのないテレビ関係者と電話とメールを駆使して、何度も連絡を取り合い、伝えたい内容を簡潔にまとめて、伝え方を工夫してみたり、相手側のメリットを伝えるなど、粘り強く提案を続けました。





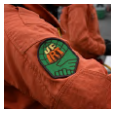
その結果、正式にテレビ取材が決定したときは本当に嬉しかったです。今回の「かんさい情報ネットten.」の放送や8月上旬に放送予定である職員の密着取材のテレビ放送を通じて、視聴者の方々から本組合への理解や信頼を得ること、そして消防という仕事に興味を持ってくださる方が一人でも増えればと思っています。これからも職員一人ひとりの魅力や本組合の取り組みを積極的に発信していきたいと思います。

公式Instagramについて

４月から運用を始めたInstagramも早３カ月が過ぎました。「かっこいい」「ここで働きたい」と思っていただけるような投稿をコンセプトに、毎週金曜日に投稿しています。
様々な消防本部のInstagramやSNSをみていると、それぞれの本部ごとのカラーが出ていて面白く、広報担当としてもとても勉強になります。流行っているダンスや面白いコント形式の動画は注目を集めやすく、いいね！やフォロワー数を伸ばしています。まずは知ってもらってこそいうことは重要だと感じる一方、**長期的な視点でみた場合には、等身大の枚方寝屋川消防組合らしさを伝えることこそが、採用広報においても重要であり、広報という枠を超えて私たちの業務や組織風土の見直しにも繋がると信じています。**
ただ、より広く知ってもらうためにも今の投稿スタイルの磨きを上げて、消防組合の良さをよりアピールしていきくよう努めてまいります!!**ひとつ目の目標**として**フォロワー数10,000人**を目指しています。どうか、ご協力のほどよろしくお願いいたします!!



フォロワー数
555人/10,000人
まだまだ
これから😮!!





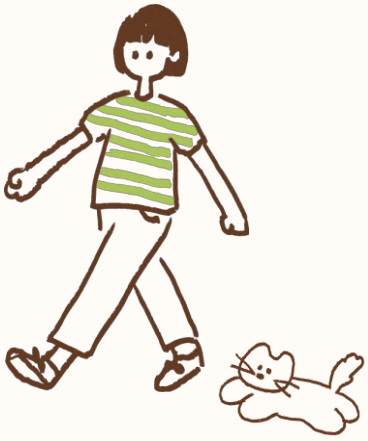


各種イベントなどで
アカウントフォローのＰＲに
ご協力お願いします!!

管内情勢の紹介

このまちが好きやねん

ひらね さんぽ





Vol.1

企画戦略課

夜空に咲く、地域の笑顔 ―枚方四中花火フェスタ

1 はじまり



花火の様子

すっかり夏の風物詩となりました。

四中花火フェスタは、2022年に「地域の子どもたちに地元で夏の思い出をつくってあげたい」という願いから始まりました。今年で５回目です。

遠くの大きな花火大会まで足を運ぶことが難しい家庭や高齢者にも、身近な場所で本物の花火を楽しんでほしいという思いが、多くの地域住民の共感を呼びました。学校を地域の交流拠点とし、地域の力で新しい夏の風物詩をつくろうと、一歩ずつ準備を重ねながら花火大会が誕生しました。その原点には、「地域の子どもは地域みんなで育てる」という温かな思いが受け継がれています。

2 歩み

四中花火フェスタは、毎年順調に続いてきたわけではありません。天候や社会情勢、安全対策の強化など、さまざまな課題に直面しながらも、地域の人々は知恵を出し合い、その時代に合わせた形で開催を続けてきました。学校、校区内コミュニティ協議会、地域教育協議会、校区内小中PTA、地域企業、子どもたちも参加するボランティアなど、多くの人が協力し合うことで、枚方四中花火は単なるイベントではなく、「地域の財産」と呼べる存在へと成長してきました。

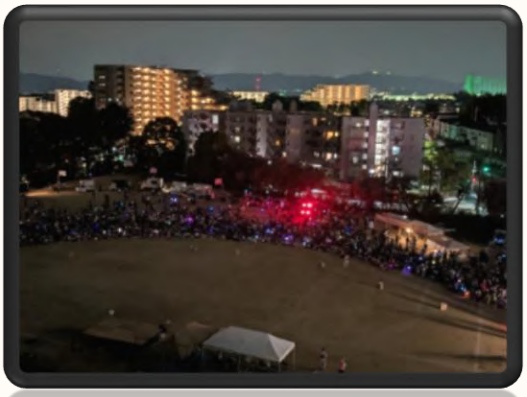


イベントの様子

子ども達だけで考えた出し物

3　地域の宝

　花火の日には、家族や友人、卒業生が集まり、久しぶりの再会を喜ぶ姿が見られます。夜空いっぱいに咲く花火はもちろんですが、人と人とのつながりが生まれることも、この花火の大きな魅力です。
　花火を見上げながら、「このまちで育ってよかった」「また来年もここで会おう」と感じられる時間は、お金では買えない地域の宝物です。子どもたちにとっても、大人になってから思い出す「ふるさとの夏」として心に残り続けることでしょう。



会場の様子

まだかな、まだかな・・・
この時間もいい思い出！

4　四中花火フェスタ実行委員会鈴木委員長から一言

　花火は、夏の思い出をつくるだけでなく、地域のつながりを深める大切な機会です。自治会や学校、地域団体、企業、ボランティアが協力して開催することで、日頃から支え合える「顔の見える関係」が育まれ、それは災害時の助け合いにもつながります。
　夜空に咲く花火は一瞬ですが、人と人との絆は地域に残り続けます。枚方四中花火は、感動を届けるとともに、「安全で安心して暮らせるまち」を育む地域防災の一助として、これからも地域の未来と人々の思いをつないでいきます。

5　今年の開催

